

白杵市教育委員会

教育長 安東 雅幸 様

白杵市議会

議長 内藤 康弘

白杵市議会 教育民生委員会

委員長 芝田 英範

白杵市公立学校の適正配置に向けた取組に関する提言

白杵市議会 教育民生委員会(以下、「委員会」という。)は、白杵市教育委員会(以下、「市教委」という。)が令和6年3月に「白杵市公立学校のあり方に関する基本方針(以下「基本方針」という。))」を示したことを受け、学校の適正配置等の計画策定について、子どもたちの「よりよい教育環境づくり」が必要と考え、昨年度より調査研究を行ってきました。

そのような中、市教委は、基本方針に基づき作成した「白杵市公立学校のあり方に関する基本計画案(以下「計画案」という)」について、令和7年2月から6月にかけて2度にわたる地域説明会や適正配置対象校の保護者を対象に話し合いを行い、様々な意見をもとに修正を行ったうえ、計画案を承認し、策定しました。

委員会では、市教委が開催した地域説明会に参加し、保護者・地区住民等との協議の推移を見守りつつ、計画案において統合後に使用予定としている野津小学校や海辺小学校等の校舎の現状や施設・設備の状況について現地調査も行いました。

地域説明会では、市教委から丁寧な説明がなされ、保護者や地区住民が納得する形での適正配置となるように留意したものでありましたが、説明に対し「子どもたちの精神的な負担軽減のため、統合に向けて小・小連携の機会を増やしてもらいたい」、「災害対応や校舎の設備は大丈夫か」、「学校が無くなるのは寂しいが、子ども達の将来や教育環境を考慮すると統合やむなしとの結論にいたった」、「小中一貫校の早期設置を望む」などの保護者や地区住民の声がありました。

また、統合後に使用予定とされている各学校の校舎等の現地調査を行った結果、更衣室などの整備や雨水の排水対策など、解消すべき問題があることを確認しました。いずれの校舎も老朽化の進行や現在の教育に合わせた環境整備が求められることから、設備改修など施設整備の必要があると考えられます。

昨年、委員会が行政視察した岐阜県北方町の「幼保小中一貫教育の実現に向けた取組について」では、系統的・継続的な学習によって中一ギャップ等の問題の緩和・解消が期待され、より多くの世代など様々な交流が可能となるなど、15歳までずっと同じ場所に通い続けることへのメリットや必要性などについて知ることができました。

今後は、児童生徒数の減少や校舎の建て替えなども含め、地域説明会でも意見が出された小中一貫校の設置なども踏まえ、10年・20年先の子どもたちの学びの場の将来を見据え、白杵市公立学校のあり方について継続して検討する必要があると考えます。

以上のことから、子ども達のよりよい教育環境を最優先に考えた適正な学校配置を実現するために、保護者や地域住民、各学校運営協議会等との意思疎通に留意し、今後の白杵市公立学校の適正配置に向けた取組として、下記の通り提言します。

記

1. 学校統合の際に使用する校舎等の設備を再点検し、子どもたちがよりよい環境の中で学ぶことができるよう、必要な設備改修を行うことについて検討すること。
2. 学校統合後の心のケアも含め、子どもたちが安心して通えるよう、統合対象校間の学校現場の意向も踏まえた形で、小・小連携の機会を増やすよう努めること。
3. 児童生徒数の推移や各学校施設の老朽化、耐用年数等を鑑み、施設一体型の小中一貫校の設置について検討すること。